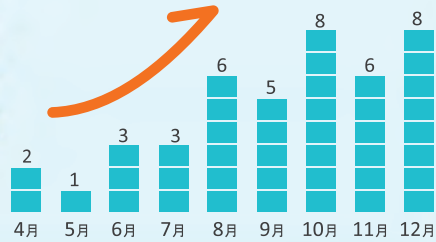


全内視鏡下 脊椎手術 2022年 症例数

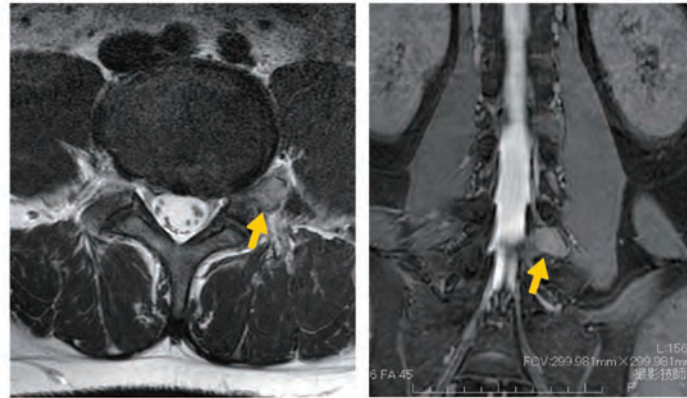
6月のひろば掲載以後、手術数が倍増しております。ご紹介くださる先生方に心より感謝申し上げます。さらに倍増しても対応可能ですので、よろしくお願い致します。

2023年も手術数が増えており
現在では50件に達しました。

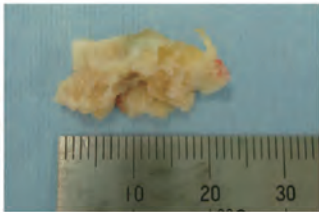
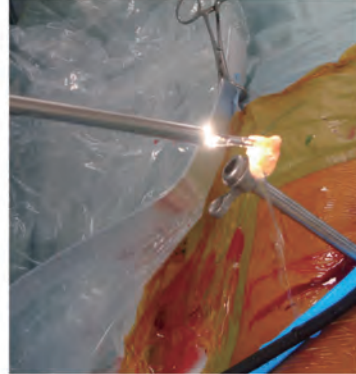


2022年6月号
で紹介

▼ L4-5 椎間孔外にヘルニア塊



▼【手術当日】術中より、左下肢痛が改善。【帰室後1時間】独歩で病棟内歩行可能。【術後1日】左下肢痛消失 ドレーン抜去。【術後2日】自宅退院。



▲ 摘出したヘルニア



KLIFを語る会のメインビジュアル

県下初 徳島大式 KLIF 進化した固定術 アドバンス的挑戦

Full-Endoscopic Trans-Kambin Lumbar Interbody Fusion
全内視鏡下トランスカンビン腰椎椎体間 固定術

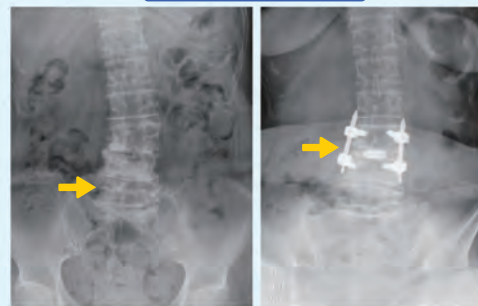
先日、腰椎変性側弯症および腰椎変性すべり症の患者さんに、KLIF手術を行いました。患者さんは、20年以上前に除圧手術を受けておられ、しばらく調子が良かったのですが、ここ数年、強い右下肢痛に悩まされ、来院されました。



KLIFを語る会ホームページ ▲

【L3-4 KLIF】 内視鏡の入る経路から、専用の器具を使い金属を入れて骨を固定する、高知県史上初の術式を行い、症状はすっかり良くなりました。

先正面像の比較



▲ 側弯が矯正されている

側面像の比較



▲ すべりが矯正されている

術中写真



矢印：ケージを入れるための皮膚切開。術者の指と比べると、傷が小ささが際立つ

手術2週間後、手術して本当によかったと、満面の笑顔で自宅に帰られました。帰宅後すぐに、生きがいのひとつである、厨房の立ち仕事に復帰されているそうです。

近森病院からの ホットライン 2023.3 Vol.229

命を救う。命をつなぐ。
CHIKAMORI HEALTHCARE GROUP
近森病院 発行：近森病院 地域医療連携センター

全内視鏡下 脊椎手術

整形外科

いのち たかし
部長 井ノ口崇



2001年 自治医科大学卒業
2011年 近森病院 整形外科 入職
2014年 近森病院 整形外科 科長
2023年 近森病院 整形外科 部長

日本専門医機構 整形外科専門医
日本整形外科学会 認定脊椎脊髄病医
日本脊椎脊髄病学会 指導医
日本整形外科学会 認定リウマチ医
日本スポーツ協会 公認スポーツドクター

こんにちは。井ノ口崇と申します。私は、自治医科大学卒業後の地域勤務を経て、2011年から近森病院に赴任し、脊椎外科を担当しています。昨年、日本脊椎脊髄病学会の臨床フェローとして、業界における世界のトップサーजनである、徳島大学 西良浩一教授のもと、全内視鏡下脊椎手術を習得してまいりました。全内視鏡下脊椎手術は、椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症、一部の慢性腰痛症の患者さんに適用される手術であり、8mmの皮膚切開から局所麻酔下に安全に行うことができる、優しい手術です。この最先端で安全な手術を患者さんに届けるために、じっくりと1年間学びました。

手術手技の研鑽はもちろんですが、患者さんとともに悩み、ともに考え、ともに喜びを分かち合う、そういった医師が望まれることを再確認し、原点に戻る1年になりました。最先端の手術を学ぶ自分と、地域で聴診器をあてていた自分は、患者さんと思うという点で一緒であり、自治医大で学んだスピリットそのものでした。徳島から戻り、10か月で45名の患者さんに全内視鏡下脊椎手術を届けることができました。おひとりおひとりの痛みやしびれがとれて、嬉しい顔を見るたびに、本当に良かったと思います。私にはまだまだこの手術を上達し、進化させていく責務があります。高知の先生方と、患者さんのために共に戦う仲間として、どしどしご紹介していただければ嬉しいです。今後ともどうか、よろしくお願い致します！



主任部長 西井幸信 自治医科大学 卒業

日本専門医機構 整形外科専門医
日本整形外科学会 認定運動器リハビリテーション医
日本スポーツ協会 公認スポーツドクター
義肢装具等適合判定医師研修修了

日本骨折治療学会 評議員
日本靴医学会 評議員
AO Trauma Japan 評議員
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) 評議員

紹介 web 予約 >> をご希望の場合は

088-822-5231 (代) 地域医療連携センターまで

整形外科

	月	火	水	木	金
午前	三宮	小田	西井	西田 田中	井ノ口

全内視鏡下脊椎手術

常識を超える、次世代の新しい手術

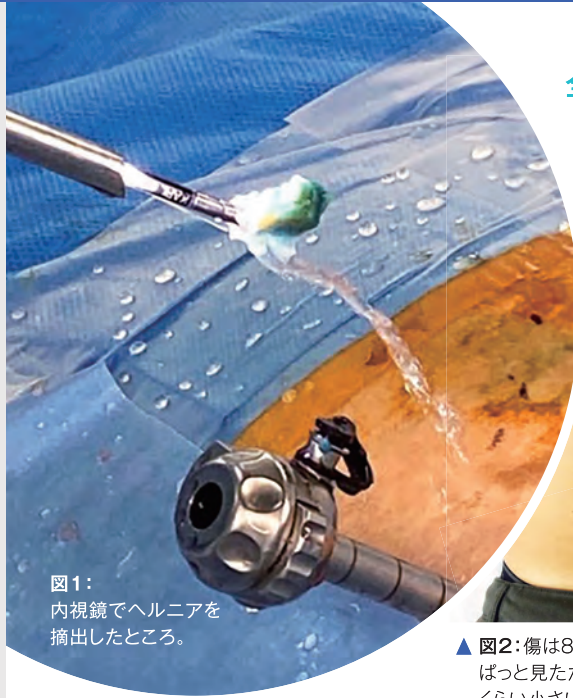
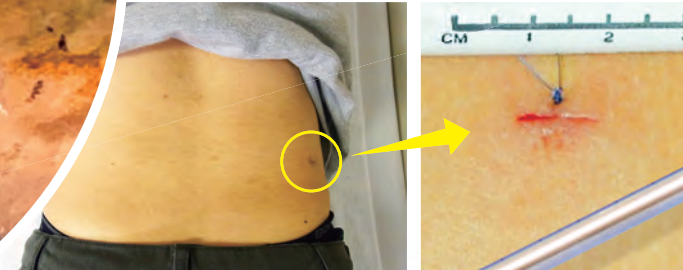


図1: 内視鏡でヘルニアを摘出したところ。

全内視鏡脊椎手術は、腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症、一部の慢性腰痛症の患者さんに適用される内視鏡手術であり、8mmの皮膚切開から局所麻酔下に安全に行うことができる、患者さんに優しい手術です。(図1、2)



▲ 図2: 傷は8mm(黄色い丸で囲んだところ)。ぱっと見ただけではわからないくらい小さいキズ。

従来は全身麻酔で適用困難のケースが存在

腰椎手術の従来法は、例えば腰椎椎間板ヘルニアであれば、全身麻酔をかけて背中の中を縦に5~6cm切開し背筋を骨からはがし、骨を削って神経をよけ、ヘルニアを摘出する方法でした。しかし、1~2週間の入院期間が必要なことから、超早期の社会復帰を希望する方には適用困難であること、筋肉の一部を剥がすことからスポーツ愛好家には不向きであること、全身麻酔が必要なことから内科的な合併症のある方には適用できないことなど、いくつかの制約がありました。

局所麻酔で切開も1/7に

全内視鏡脊椎手術は2000年頃からヨーロッパや韓国を中心に発展し、本邦には帝京大学の出沢明元教授が導入しました。局所麻酔下に8mmという極めて小さい傷から、専用の内視鏡(図3)を使って腰の手術が可能であり、これまでの常識をくつがえす、全く新しい手術です。

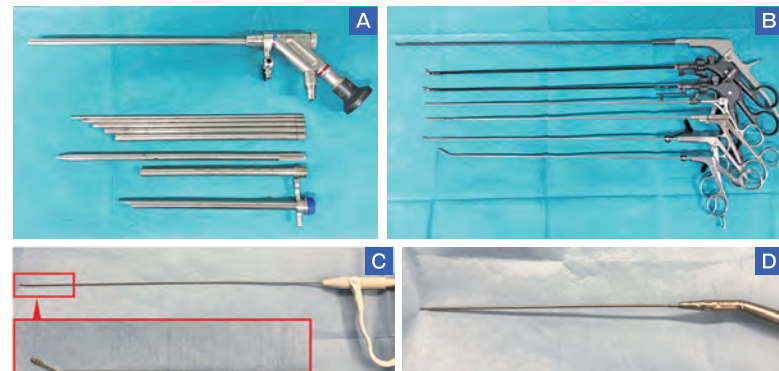


図3: 専用の25度斜視鏡を用いる。ワーキングホールは約4mm。

ヘルニア手術では、術中に痛みが軽減することも

全内視鏡脊椎手術は、局所麻酔下に8mmのひとつのポータルを経椎間孔的に作成し、内視鏡を挿入します。他の整形外科分野の内視鏡手術と同様に、生理食塩水で灌流しながら、必要に応じて3mmのハイスピードドリルで骨を削り、鉗子でヘルニアを切除します。途中、出血があれば、ラジオ波バイポーラで止血を行います。他の脊椎用手術器具と異なり経皮的に行う手術なので、器具がどれも長いのが特徴です(図4)。

経椎間孔的に行う全内視鏡脊椎手術では、ヘルニアに向けて一直線にアプローチできるため、骨の切除も最少であり、体への負担が格段に小さいです。局所麻酔で行いますので、ヘルニアをとっている最中に「あ、先生今、足の痛みが良くなった」とおっしゃることもしばしばあり、これには驚嘆するしかありませんでした。



▲ 図4: 内視鏡手術の器具一式。
A: 内視鏡、シリアルダイレータ B: 各種鉗子
C: ラジオ波バイポーラ D: ハイスピードドリル

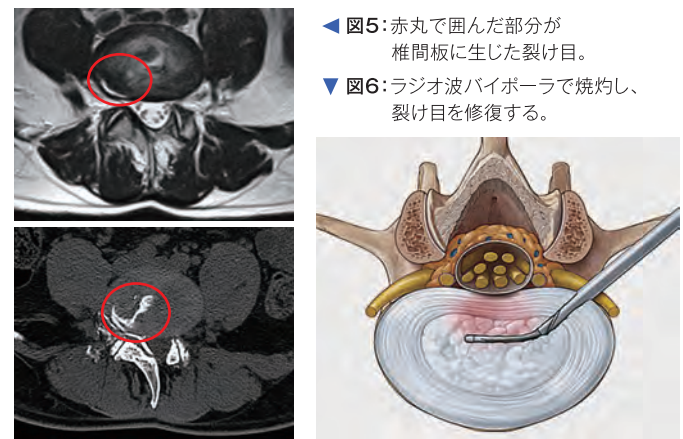
適応症

- 椎間板ヘルニア
- 脊柱管狭窄症
- 椎間板性疼痛症候群
- 慢性腰痛症

慢性腰痛の方にも朗報

また、これまで診断や治療が難しかった慢性腰痛の患者さんに対しても、2つの病態に対して全内視鏡手術で治すことができるようになりました。1つはHigh signal intensity zoneで、これは、椎間板にできた裂け目です(図5)。この部分に内視鏡を入れて、ラジオ波バイポーラで焼灼することで、痛みをぐっと抑え込むことができます(図6)。もう1つは、Modic変性(図7)で、椎間板などの慢性的なストレスや疲労が原因と考えられます。これまでは、ボルトを入れて固定するしかありませんでしたが、内視鏡で内部をクリーニングすることで、7~8割の患者さんの痛みがとれることがわかってきました(図8)。これらの手術も、ヘルニアと同様すべて局所麻酔で数日の入院期間で行うことができます。

High signal intensity zone

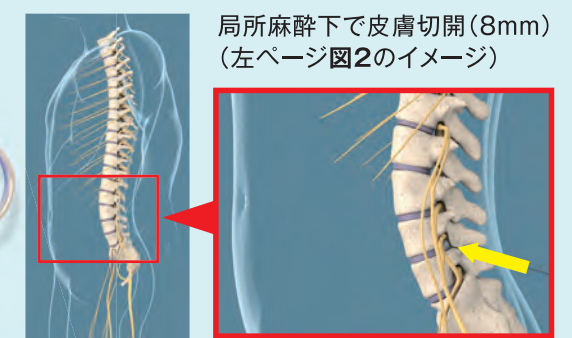


▲ 図5: 赤丸で囲んだ部分が椎間板に生じた裂け目。
▼ 図6: ラジオ波バイポーラで焼灼し、裂け目を修復する。

Modic変性

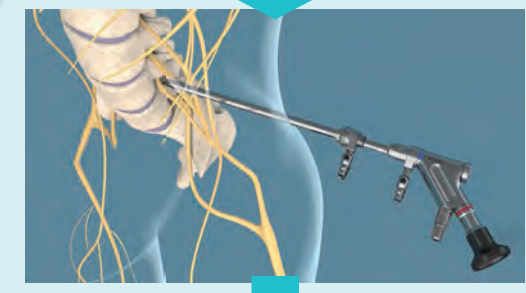


▲ 図7: 赤丸で囲んだ部分が、ストレスや背骨の慢性疲労により、白くなった状態。
▲ 図8: 内視鏡で見ると、患部は出血しており、ラジオ波バイポーラで焼灼止血を行い治療する。

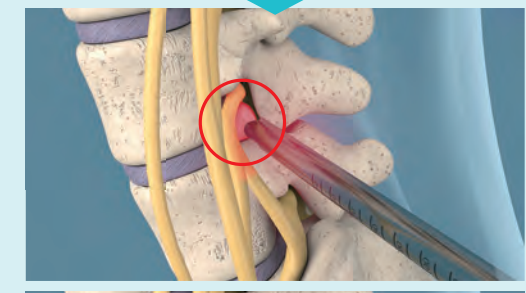


局所麻酔下で皮膚切開(8mm) (左ページ図2のイメージ)

ヘルニア手術の流れ



内視鏡を使って低侵襲に病変部にアプローチ



ヘルニアを切除(左ページ図1のイメージ)

世界トップの徳島大学 西良教授のもとで修業をして

この手技を習得するには、その道を極めた先生のところで修行させて頂くのが近道と考え、現在この業界で世界のトップを走る徳島大学西良浩一教授の下でみっちり1年間、100例を超える腰椎内視鏡手術を経験させて頂きました。徳島大学で研鑽を積んだことで、腰や足の痛み・しびれを解決できる可能性が広がりました。困っている方とつらさを分かち合い、内視鏡手術で痛みが楽になり、その喜びを分かち合えたら、大きな喜びです。

▶ 世界一のプロフェッショナル 西良教授と共に内視鏡手術を行う筆者(右の白いメガネ)。



近森病院 整形外科 部長
井ノ口 崇
いのくち たかし